



# "話題の円安、知っておきたい為替のあれこれ"

一般社団法人確定拠出年金推進協会

2022/7/19 配信

## DC ニュースレター

近頃、ニュースで「円安」の言葉をよく耳にします。外国為替市場の動きは DC の運用にも影響を与えるのですが、さて、みなさんは、外国為替について、どの程度ご存知ですか？

### 外貨に対する円の価値が下がるので「円安」

異なる通貨を交換することを外国為替といい、交換する比率(価格)にあたるものが外国為替レートです。



上のグラフは、過去 20 年のドル円の為替レートの推移です。近年、1 ドル 100~120 円程度で推移していましたが、2022 年に入り、120 円を超え、7/14 には 139 円台に突入しています。以前は 120 円払えば 1 ドルに交換できたものが、139 円払わないと 1 ドルに交換できません。つまり、ドルに対する円の価値が下がっている状態です。この状態を

「円安ドル高」といいます。反対に、1 ドル 80 円となった過去の局面は、ドルに対する円の価値が上がっている状態なので「円高ドル安」といいます。

### 金利差の拡大が円安の要因？

多くのメディアでは、日米金利差の拡大が円安ドル高の要因だと伝えています。



上のグラフは、過去 20 年の日米の 10 年国債の利回りの推移です。日本とアメリカの利回りの差が日米金利差を意味します。2022 年に入り、アメリカは、インフレ対策のために政策金利を幾度も引き上げ、国債の利回りも高くなりました。一方の日本は、景気の回復が弱いことを理由に金融緩和を継続しており、国債の利回りも低いままです。このため、日米の金利差が拡大しています。



確定拠出年金に関するご相談窓口はこちら  
TEL 03-5689-3358  
MAIL 401k@member.deco-pa.com

一般社団法人確定拠出年金推進協会  
東京都文京区後楽 2-2-14 トークスビル 1F  
<https://www.deco-pa.com>

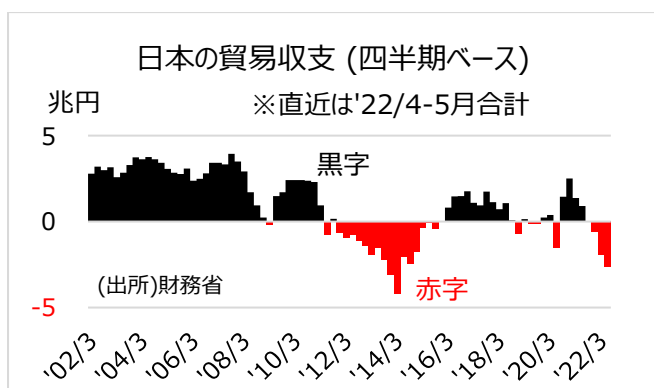


日米の金利差が拡大すると、日本の債券より、アメリカの債券で運用する魅力が高まります。そのため、日本の債券を売ってアメリカの債券を買う投資家が増え、円を売ってドルを買う為替取引が増えることから、円安ドル高になるという訳です。

でも、ちょっと待ってください。過去にも金利差が拡大している局面がありますが、必ずしも円安にはなっていません。何が違うのでしょうか？

### 金利差だけではない円安の理由

為替の変動は、金利差だけで全て説明できるほど単純なものではありません。

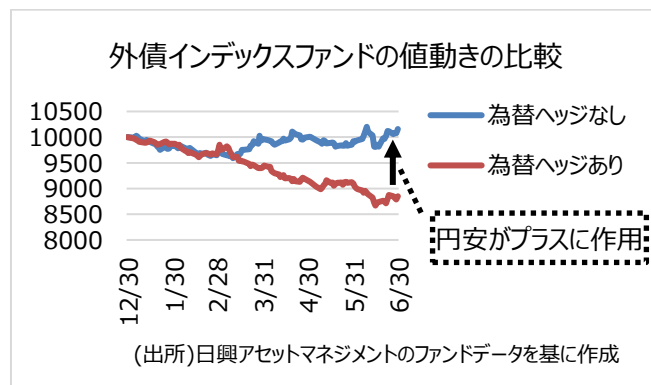


上のグラフは、日本の貿易収支（四半期ベース）の推移です。貿易収支とは、輸出額から輸入額を差し引いたもので、日本が貿易によりどれだけ外貨を稼いでいるかを表す統計です。2000年代初頭まで、日本は多額の貿易黒字を稼いでいました。しかし、2011年の東日本大震災により原子力発電を止め、化石燃料の輸入を増やしたことから、貿易赤字に転落しました。その後黒字を回復しましたが、2021年後半から原油価格の高騰などにより再度赤字に転落し、足下赤字が拡大しています。

このように、日本が貿易で外貨を稼げなくなったことから、別途外貨を調達する需要が高まり、円安につながっていると見られています。

### 円安は外貨建て資産にプラスの効果あり

物価上昇を招くなどデメリットが多い円安ですが、運用においてはプラスの作用があります。外貨建て資産に投資する運用商品は、円安になると、円に換算した評価額が大きくなります。



上のグラフは、大手運用会社が運用する、債券部分の運用が全く同じ外債インデックス 2 ファンドの2022年1～6月の基準価額を指数化し、比べたものです。「為替ヘッジなし」は通常の外債ファンドですが、「為替ヘッジあり」は為替ヘッジをしているため為替変動の影響を殆ど受けないファンドです。この期間、債券価格の下落を受け、「為替ヘッジあり」は値下がりが続いています。一方、通常の「為替ヘッジなし」は、円安が円換算の評価額を押し上げ、3月以降は値上がりに転じています。

このように、一般的に、円安時には外貨建て資産への投資が有利になります。反対に、円高時には外貨建て資産への投資が不利になります。

短期的には今後も円安が進むとの予想が多いです。でも、長期的な為替レートが円安に進むか円高に進むかについては、専門家の間でも意見が分かれるようです。

DCは長期の運用です。常日頃から資産と通貨の分散を図り、成果が上がるのをじっくり待ちましょう。

